

平成26年度 相談支援フォーラムin長崎

# 鹿児島県における がん相談支援センターの取り組み

平成27年1月31日(土)

## 鹿児島県 がん相談支援センター

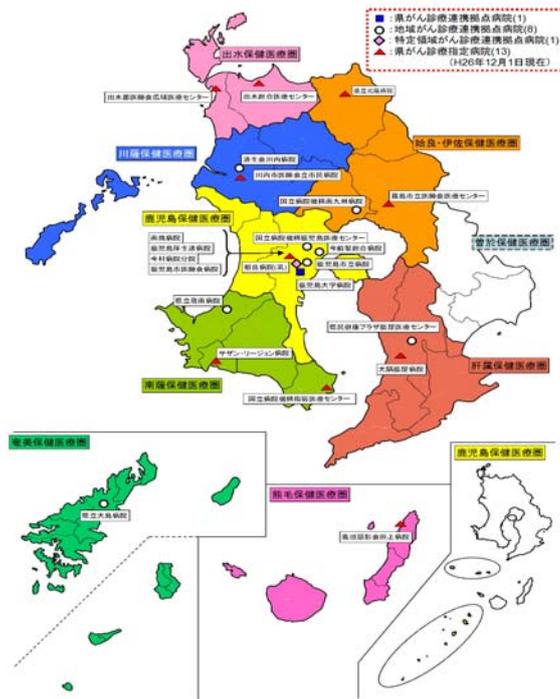
○鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 野村瑞穂  
 独立行政法人国立病院機構南九州病院 久永佳弘  
 鹿児島県立大島病院 榎愛香  
 鹿児島県保健福祉部健康増進課がん対策・歯科保健係 塩屋公子

1

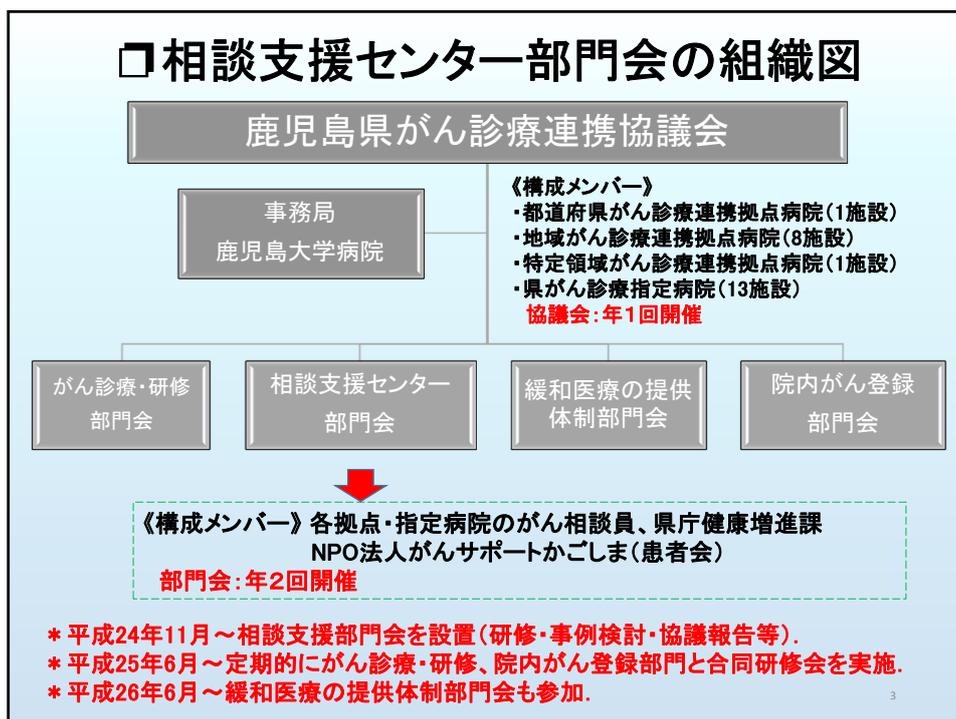
## □鹿児島県の現状

### 【がん相談支援上の問題】

- 過疎化・高齢化が進んでいる。
- 相談支援センターの役割や設置場所についての認知度が低い。  
(H24年7月現在認知度:35.4%)
- 28の有人離島があるが、2カ所を除いて相談する場所がない
- 本土内でも拠点・指定病院がない二次保健医療圏がある。  
(曾於保健医療圏)
- 鹿児島市内に拠点・指定病院が集中している。



## □相談支援センター一部門会の組織図



## □相談支援センター一部門会活動の経緯

★平成24年11月に相談支援センター一部門会設置



- ・相談員のスキルアップと部門会活動の促進
- ・相談支援センターの院内・地域への周知・広報
- ・相談員同士の連携促進



- ◆ 年に2回部門会を開催し、研修・事例検討・協議報告について取り組む。  
→ 事例検討を行うことで、相談員同士の連帯感を醸成する。
- ◆ 第3回目の部門会から、開催・企画を持ち回りで担当し、皆で作りに上げていく意識を持ち取り組む。  
→ 企画・運営に参加することで主体的に取り組む姿勢を培う。

### □これまでの取り組み

	全体研修会	事例検討	協議・報告等
平成24年度	第1回 (H24.11.9)		【協議】 ・平成24年度のがん相談支援部門会活動について 【報告】 ・地域相談支援フォーラム(九州・沖縄ブロック)の概要について(実行委員会報告)
	第2回 (H25.2.8) 【部門会単独研修会】 「新しいがん治療のかたち (粒子線治療)」 講師:メディポリス医学研究財団 荻川良夫氏		【協議】 ・地域相談支援フォーラム(九州・沖縄ブロック)の概要について(フォーラムの報告) ・平成25年度のがん相談支援部門会活動について 【報告】 ・国内・県内のピアサポーターの動きについて ・メーリングリストの活用について
平成25年度	第3回 (H25.6.1) 【合同研修会:がん相談支援部門企画】 「がん診療連携クリティカルパス研修会」 講師:熊本赤十字病院 血液膠原病内科部長 吉田稔氏 講師:熊本大学病院 私のカルテセンター コーディネーター 里山弘子氏	・経済的な問題を抱えた相談者に対して、相談者としてどのように対応すべきか?	【報告】 ・都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会報告 【その他】 ・国立がん研究センターがん対策情報センター 職員3名から自己紹介・挨拶 相談員サロンの開催について 県、県政広報番組への協力について(行政と協働) ・R・F・L・ジャパンがこしまについて(患者会、行政と協働)
	第4回 (H26.2.21) 【合同研修会:がん診療企画部門企画】 「最新化学療法」 講師:熊本大学附属病院 がんセンター外来化学療法室長 野坂生郷氏	・がん相談支援センターにおける問題を明らかにする (自院のがん相談支援センターを事例に、グループワークを実施)	【報告】 ・第2回九州・沖縄フォーラム開催報告 【その他】 ・次年度の活動について等
平成26年度	第5回 (H26.7.26) 【合同研修会:がん登録部門企画】 「愛媛県がん診療連携協議会の 取り組み」 講師:独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 寺本典弘氏	・終末期患者の在宅支援について ～がん相談員としてどのような支援ができるか?～	【業務検討】 ・自院のがん相談支援センターの課題への取組について 【報告・連絡】 ・都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会報告 ・九州・沖縄ブロック相談支援フォーラムについて ・がん相談支援事業について ・がん医療を語るうさわんについて ・R・F・L・ジャパンがこしま報告

\* 平成24年度から毎年度、行政と協働し、ラジオ・テレビでの広報活動を実施。

### □がん相談支援センターの業務体制及び成果等について

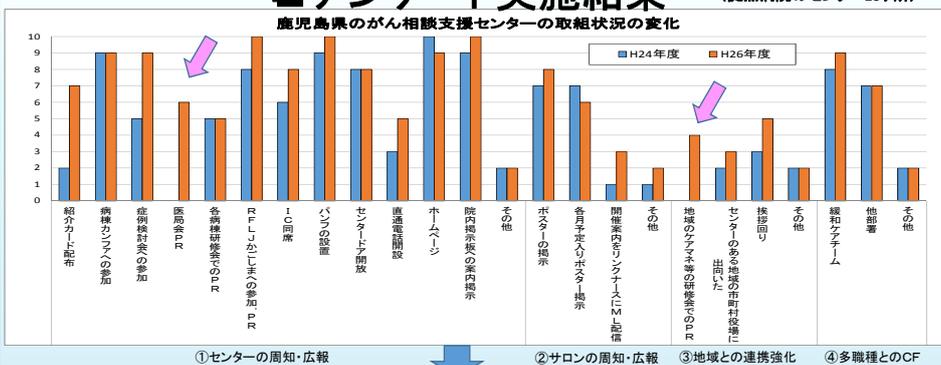
課題 (PLAN)	実践 (DO)	評価 (CHECK)
①がん相談支援センターの周知・広報	・院内職員への周知 ・各外来(医師・看護師)への相談支援センター紹介カードの配布 ・病棟カンファレンスや症例検討会に積極的に参加し、センターをPR ・院内MLでの紹介カードのPR ・医局会・外来会での医師・看護師への周知 ・各病棟研修会でがん相談員が相談対応していることをPR	・カンファレンスへの出席により、医師や他職種と顔の見える関係づくりができ、病状説明時に声がかかり同席できた。 ・医師、病棟看護師からターミナル期の患者への在宅療養への支援依頼が増えた。 ・患者説明時に同席することで、患者と継続的関わりが出来るようになった。
	・院外(患者さん等)への周知・広報 ・常時、がん相談支援センターのドアを開放 ・直通電話の開設、ホームページへの掲載 ・院内掲示板へセンターの案内表示 ・がん相談支援センターの入り口に各種がん疾患パンフを設置 ・センターの案内ミニチラシを入院案内の中に掲載 ・がん告知、病状説明時への同席 ・リレーフォーライフに参加しての相談支援センターのPR ・「私の手帳」の説明会での相談支援センターのPR	・紹介カードを持参され、「これを見ました」との相談例。 ・「ポスターを見ました」との相談例。 ・入院案内にチラシを入れることで、入院患者全員にがん相談の案内を配布することが可能となった。
②患者サロンの周知・充実	・患者サロンの各月予定入りのポスター作成及び掲示 ・月ごとのサロンの開催案内をリンクナースにメール配信。必要時、看護師が印刷して入院患者へ紹介	・ポスターや患者サロン案内を活用して紹介する病棟看護師が増えた。
③地域との連携強化	・年度当初に、地域の関係機関へ挨拶回り ・交流会の企画 ・地区の介護支援専門員研修会での説明(センターのPR及びセカンドオピニオンについて) ・「私の手帳」説明会の実施 ・センター所在地の市役所に出向き、センターのリーフレットを配布	・連携がスムーズになった。 ・「看取り」をテーマにした研修会に医療・福祉施設より多数参加(約100名)。 ・「私の手帳」を使用したいと在宅医から申し出。
④他職種合同カンファレンスの開催	・病棟カンファレンスや症例検討会に積極的に参加 ・がん相談支援センターと緩和ケアチームの週1回のカンファレンス及びミーティングの実施 ・情報共有のカンファレンス実施(自部署:毎日、他部署:週1回)	拠点・指定病院の各センターの取組を整理

## □課題解決に向けた活動の可視化

大項目	小項目
① センター周知・広報	(1) 紹介カード配布
	(2) 病棟カンファレンスへの参加
	(3) 症例検討会への参加
	(4) 医局会PR
	(5) 各病棟研修会でのPR
	(6) リレーフォーライフジャパンかごしまへの参加, PR
	(7) IC同席 * 条件あり
	(8) パンフレットの設置
	(9) センタードア開放
	(10) 直通電話開設
	(11) ホームページ
	(12) 院内掲示板へのセンター案内掲示
	(13) その他( )
② 患者サロンの周知・充実	(1) ポスターの掲示
	(2) 各月の予定入りポスター掲示
	(3) 開催案内をリンクナースにML配信
	(4) その他( )
③ 地域との連携強化	(1) 地域のケアマネジャー等の研修会でのPR
	(2) センターのある地域の役所に出向いた
	(3) 年度当初の挨拶回り
	(4) その他( )
④ 他職種とのカンファレンスの実施	(1) センターと緩和ケアチームとのカンファレンス
	(2) 他部署との情報共有カンファレンス
	(3) その他( )

## □アンケート実施結果

(拠点病院のセンター10ヶ所)



### 【結果】

- 県全体での取組を実施し2年が経過した。センター間の差はあるものの、共通の目標のもと活動されてきている。
- 担当者が変わっても相談支援センターの機能は維持可能であった(質の担保)。
- 改善・取り組むべき重点項目が整理されつつある。

### 【全体の共通した取組と評価(PDCAサイクル)】

- 具体的な活動目標・項目が設定されているため、各活動の成果が確認できる。
- 県内のがん相談支援センター全体の評価も可能になり、次期目標も明らかになる。

### 【新たな取り組み状況】

- 院内の医局会でのPRや市町村の保健師訪問、地域で開催されるケアマネの研修会等でがん相談支援センターの周知活動の実施
- 県委託で実施される「がん相談支援事業」(年3地区開催)にその地域の相談員が出向き、センターの概要等を紹介



研修で発表する久永氏